



横浜市立

中川西小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nakagawanishi/>

令和5年1月11日発行



1月号

《かわいい子には、〇〇をさせろ》

校長 村越直之

新年明けましておめでとうございます。昨年のご厚情に心より感謝申し上げますとともに、今年もご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

昨年12月の最後の朝会で、子どもたちに私が子どもの頃、年末にしていた家の仕事(手伝い)の話をしました。池の掃除、トイレ掃除、風呂掃除、風呂焚き(薪と石炭)、煙突掃除、薪割り、換気扇掃除、庭木の枝の剪定、部屋の壁のペンキ塗り、窓ガラス吹きなどです。一年を通じてしていた仕事もありますが、冬休みになるとふだんできないこともリストに追加されます。このノルマを達成しないと遊びに行けないうえ、お年玉にも影響します。けんかばかりしている兄弟も、このときばかりは3人で協力しながら懸命に年末の大掃除に汗を流したものです。

最近読んだ文章に「子ども家事の三原則」というものがありました。

以下、引用

- ① 全てをお任せできる**家事**を一つでいいからつくる。
- ② **家事**をする時間や方法は子どもに任せる。
- ③ 任せた**家事**には手を出さず、失敗してもとやかく言わない。

自分で時間の管理をし、自分で方法を考えることは、早いうちに習慣づけておく方がよく、生活面での自立につながります。親が心の余裕をもつと、子どもの些細な失敗を許せたり、子どもに「一緒にやっといこうね」と声かけができ子どものやる気をアップさせたりすることができます。結果、子どもは家事能力が付き、生活面で自立するようになります。この「一緒に考えながらやっといこうね」という親の向き合い方が、「子ども家事」を成功させる最大の秘訣であり、子どもが自立できるかどうかのカギなのです。

これは、家庭だけの話でないと思います。「家事」という言葉を「クラスの仕事」「委員会の仕事」「学校の仕事」などに置き換えて考えることもできます。指導者が安全面は配慮し、できれば一人一役の仕事を与え、仕事をやり遂げるまでじっと待つ。うまくできたときにはその努力を認め、評価する。うまくいかなかったときには、まずは頑張ってきたことを認め、その後解決方法を一緒に考える。根気のある指導支援ですが、子どものやる気を引き出し、自立した個を育てる基本だと思っています。私たち教職員が少しでも心の余裕をもって子どもたちの学校生活を支え、生き生きと活動する場面を創り出していきたいと思っています。

12月に横浜市教育委員会から発出された「学校における給食・昼食の場面での感染症対策について」という通知の中で、給食時様々な感染症対策を講じたうえで児童間で会話を行うことも可能であることが示されました。本校では、校内の感染者数や体調不良者数の推移を注視しつつ適切に判断していきたいと思っています。ただ、今の段階では現状の指導を継続してまいります。休み時間や体育の時間は基本的な感染防止対策をしたうえで、マスクを外して活動するよう引き続き指導してまいります。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

本年が皆様にとって幸多き年となりますことを祈念申し上げます。